



こんにちは  
三重病院

## QC活動

三重病院では、職場ごとや複数の職種でチームを作って、QC(Quality Controlの略)サークル活動を行っています。



▲発表風景

QCとは、『品質の管理』のことで、昭和37年製造業の製造部門から生まれた言葉です。今や、日本の品質は世界一と言われていますが、QCサークル活動を通して、低コストで最高レベルの品質に到達することができたという歴史があります。

三重病院も医療の質を向上させる取り組みとして、よりよい患者サービスの提供・医療安全の推進・経営改善などを目的として、QCサークル活動を行っています。

QCサークル活動のチームは、医師・看護師・薬剤師・検査技師・放射線技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・児童指導員・保育士・栄養士・事務部門など病院で働く多くの職種から成り立ち、職場ごとや職場を超えた仲間でご構成されています。

毎年1回院内報告会を開催し、今年は3回目の報告会となり、取り組み



▲審査風景と、会場よりの質問に答える発表者

会場風景▶



▲会場よりの質問



数は延べ46題となりました。今年の報告会には119名の職員が参加し、各職場の創意工夫された取り組みをみんなで共有することができました。発表者からは、「がんばってきてよかった。」「これからはがんばり隊!」「来年度は優秀賞を狙いたい」と、業務改善の取り組みが定着してきている様子が見ええました。

今後も引き続き、より良い医療が提供できるよう現場からの改善活動に取り組んでいきたいと考えています。  
(QCサークル活動推進事務局)

ちなみに平成23年度の取り組みを国立病院機構に応募し、選ばれた2題のうちの1題をご紹介します。

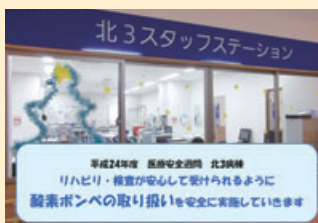
### 1. 療育指導室の取り組み

国立病院機構理事長表彰 優秀賞

通園を利用されている方へのスタッフからの渡し忘れをなくす取り組みを行いました。『注意喚起シール』『預かりカード』『ホワイトボードの活用』『スタッフ間の声かけの強化を行うことで、渡し忘れをなくすことができました。



## 医療安全管理室からのお知らせ “北3病棟の取り組み”



北3病棟は呼吸器疾患、内分泌疾患を専門とする内科病棟です。

呼吸器疾患の患者様には酸素療法が必要な方がみえます。酸素ボンベ付き車椅子

を使用し、トイレや、リハビリ室に移動したり、食事ときは食堂に移動したりしています。

ベッドサイドの壁にある酸素の中央配管から、移動のため酸素ボンベに切り替える時、酸素療法を安全に行えるよう、①医師の指示どおりの酸素が流れているか、②接続にゆるみがないか、③酸素ボンベの残量が足りているかなどを確認するチェック表を作成しました。検査やリハビリなどで長時間病棟を離れる際に、途中

で酸素が不足しないようこのチェック表を必ず活用しています。

また、確実に安全に検査、リハビリが受けられるように検査技師、放射線技師、理学療法士、作業療法士の面々と看護師がチェック表と一緒にダブルチェックしています。

医療安全週間では「酸素ボンベの取り扱いを安全に実施していきます」をスローガンに病棟全体で取り組んできました。

(北3病棟医療安全推進担当者  
中村 典子)



医師の酸素の指示を記入しています

確認事項をチェック項目にしました